

単元名 「今 わたしたちが地球のためにできること」

題材名 「地球環境を守ろうとする人たち」

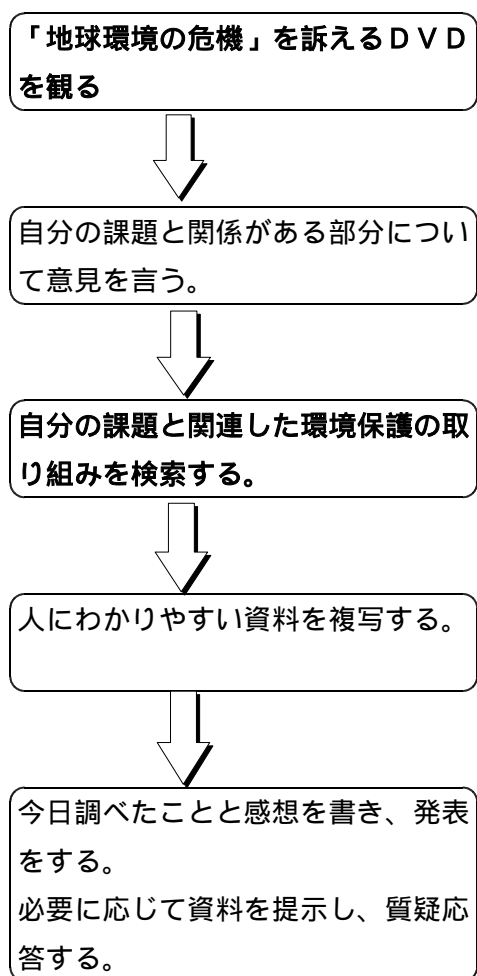
目 標

- ・地球環境の自分の興味関心に合った分野で、環境保護や開発研究をしている人々の取り組みを、適切な情報源を選んで調べられる。
- ・調べた事柄を自分の課題解決に生かし、人にわかりやすく表現できる。

コンピュータを活用する利点

自分の課題に迫るキーワードを探すことで、考えが深まる。また、情報の種類と量によって、わかりやすさが違うことを体感でき、自分のまとめ方を工夫できる。本や新聞など、文字メディアの良さに気づき、コンピュータも、一つの道具として目的に応じた使い方をする必要を感じられる。

授業の流れ



ICT活用場面

まず、子どもたち全員に、ゴア米元副大統領の出演する番組（NHKスペシャル「気候大異変」）の一部をDVDで見せた。番組では、水不足、気候変動、台風の襲来、温暖化、絶滅動物など、短時間に様々な事実や問題提起をしていたので、映像が、児童それぞれの課題への興味を高めると考えたからである。視聴後、子どもたちは、それらが地球上で起こっている現実だということや、近い将来により多く起こると予想されることに一様に驚き、各自の素朴な疑問を課題にしていった。

次に、図書「あきらめないこと、それが冒険だ エベレストに登るのも冒険、ゴミ拾いも冒険！」（著者：野口健，出版社：学研）で、エベレストのゴミを収集しているアルピニスト野口健さんの取り組みを紹介し、各自の検索活動に入った。

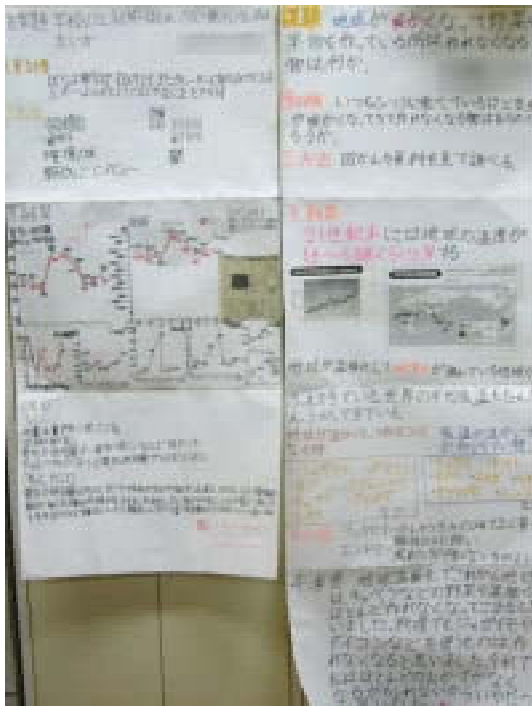
はじめ児童は、インターネットだけで検索していた。Webページ（企業名+ kid や、yahoo kids）の中には、最新情報を映像やイラストでくわしく載せてあるものがあったが、読みこなすのがたいへ

んで、自分で考えたキーワードを入力しても能率良く情報が集まらないことが多かった。そこで、新聞記事や事典を調べたり、ヒントを与えてくれる人に尋ねはじめ、関

連した部分の取材や印刷・コピーをはじめた。資料から読み取ったことを自分のことばに直す作業では、大事な数字やことばに注目させ、資料の言わんとすることを班で話し合わせた。また、たくさんの資料の中から、必要な絵や図を選択したり、自分の学校のエネルギー消費のデータをグラフ化したりするなど、よりわかりやすい資料作りを心がけた。

児童は、富士山のゴミ収集、地下栽培、砂漠の緑地化、省エネ自動車、エコ燃料開発、シロクマの観察保護、食糧自給、気候に合う作物調べ、動物保護、風力発電、資源の再生、学校におけるエネルギー消費など、現状や人々の課題に関連した取り組みを調べていた。複写したものには線や などを書き入れさせ、画用紙にまとめた。

それを自分のことばで発表できるようにメモや感想を書かせ、必要に応じて、コンピュータ画面をプロジェクターで投影して全体発表した。



成果と課題

インターネット検索のよさと不便さを実感できた。子ども向けのサイト(kids)はたいへんわかりやすく、自分たちも相手を考えて発信することの大切さに気づけた。すべての作業でコンピュータ等の ICT 機器を使うのではなく、調べた内容に合わせて手作業と組み合わせることで作業を効率的に進めることができた。そうしてできた時間を内容の理解や発信内容の吟味に費やすことができ、学習を深めることができた。

今後は、地球を救うために自分たちに取り組めることを、話し合いや電子会議等で会話しながら共同学習できるまでに高めていきたい。

ICT活用環境等

使用周辺機器	プリンター・プロジェクター・DVD
使用ソフト名等	Internet Explorer
使用教室	パソコン教室・図書室・普通教室